

19期（中学3年生） 自立支援プログラム「社会貢献ワークショップ」

4月28日（火）5・6限に「社会貢献ワークショップ」を行いました。日本ファンドレイジング協会から各クラス2名の講師の方をお招きしました。社会課題や社会貢献という視点を学ぶための特別授業として行いました。今後、19期が本格的に卒業研究を進めていくうえで大切な授業です。

まずはクイズから始まりました。いくつかの写真を見て、どのような社会貢献が隠れているか考えました。買うと寄付できる自販機や商品、英単語のクイズに答えて正解するとお米10粒分を飢餓で苦しむ国に寄付できるウェブサイト、4年間で30億円を集めたチャリティーTシャツ、東京マラソンのチャリティーランナー…私たちの生活の中にたくさんの寄付が隠れていました。

次に「社会貢献は『寄付』と『ボランティア』の両輪で成り立っている」ということを教わり、「あなたにとって社会貢献のイメージは？」というワークに取り組みました。多くの生徒が「つまらない」と「カッコいい」や、「つまらない」と「楽しい」など相反するようなキーワードに同時に○を付けていました。「価値があることなのはわかっているけれど、自分が参加するとなると…」というつぶやきが多く聞かれました。「その2つのイメージが共存するものって他にある？」と聞くと「…勉強？」とのこと。なるほど！また、「よく分からない」や「お金の動きが不透明」などのイメージもあるようです。ファシリテーターの方からは「私たちはお金の動きの透明性を上げるための仕事もしています。大事な視点ですね。」というお言葉がありました。前半の最後には、「多くの社会課題があり、人によって関心もとらえ方も様々で、人によって違って良い。」ということも学びました。

後半は「豪雨の翌日」という文章を読み、被災者に対してできることを考えるケーススタディを行いました。食料の寄付や片づけのサポートなどといった「物」の支援に加え、寄り添う、話を聞く、などの「心」のサポートを挙げる生徒も多くいました。また、「踏み込まれたくない」という気持ちを尊重し、敢えて何もしない、いつも通りにする、などの意見も挙がりました。社会貢献は独善的になってしまうこともあります。卒業研究を進めるうえで「社会課題の解決」をテーマの軸に据える生徒もいます。「本当に自分のアイデアが課題解決に役立つのか、かえって別の問題を生まないか」という考え方を身につけることができました。

【振り返りから】

- ・それぞれが興味をもつ分野や、どこまでできるかの限度が違うということを改めて可視化できました。これだけ分かれたので一人一人が少しでも動ければ社会が大きく変わるのではないかと考えました。「困っている人を助けたい」という根底の考え方は共通していて嬉しくなりました。
- ・ワークシートの選択肢にある社会課題を解決することも大切だけど、社会課題が生まれにくいような社会を作ることも重要で、そちらの方に興味がある、という意見に「なるほど」と思いました。
- ・実質的平等、形式的平等のどちらが正しいとか、より優れているとかは一概に言えないけれど、どちらも終着点として人間の幸せを望んでいることに変わりはないので、手段は違っても、自分が

正しいと思う、人への救いを与えることが大切だと思います。その自らの意見や手段を他人に押し付けずに自分の中の正義や人のためになることを貫いていきたいと思いました。

ファシリテーターの皆様、ありがとうございました。

